

「未来に残したい草原の里 100 選」 認定書授与式・記念フォーラムを開催します

- 今春、美しい草原の風景を残す地域 34 箇所が、初の 100 選として選ばれました。
- 10/18(火)に東京都内において、認定書の授与式を行います。
- 湯本貴和氏（選考委員長）の講演会や、選定地域からの事例発表も行います。
- 同日から、第二次募集を開始します。

- 草原のある美しい風景とその地域に光を当てるため、「全国草原の里市町村連絡協議会」（会長：岩井茂樹東伊豆町長）では、2022 年春、国内初となる「未来に残したい草原の里 100 選」を行い、全国から 34 箇所の地域を選定しました。



未来に残したい
草原の里
100選

- 10/18(火)、東京都内（会場：東京農業大学）で、選定地への認定書の授与式と、記念フォーラムを開催します。フォーラムでは、選考委員長で京都大学名誉教授である湯本貴和氏による日本の草原についての講演会と、全国 6 箇所の地域からの事例発表があります。（資料 1：チラシ）



- 授与式・フォーラムには、マスコミの方を含めて、一般の方も参加できます（先着 90 名、要予約、10/11㍻切）。以下の画面から申込みができます。

<https://peatix.com/event/3351792/>

- 引き続き、全国の草原のある地域を選定するために、10/18(火)より第二次募集を開始します。なお、一次選定の地域、「未来に残したい草原の里 100 選」の概要は、資料 2 のとおりです。

■ 本リリースに関するお問合せ

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：山田・前田

〒413-0411 静岡県賀茂郡東伊豆町稲取 3354 東伊豆町 企画調整課

Tel: 0557-95-6202 Email: sogen100@sogen-net.jp


コロナ感染拡大防止の観点から、テレワークを推奨しています。そのため、お問合せはお手数ですが上記メールアドレスへご連絡ください。ご理解のほどよろしくお願いします。



未来に残したい

草原の里100選

草原のある暮らしに育かれた
「共創資産」を次代につなぐ

開催場所 東京農業大学 横井講堂（東京都世田谷区桜丘 1-1-1） &  YouTube

参加料金 無料（事前オンライン登録が必要です、右の QR コードからお申し込みください）



申込みフォーム

記念講演

日本の草原：過去・現在・未来を考える

湯本貴和（100 選選考委員長・京都大学名誉教授）



事例発表

寒風山 日本海をぐると見渡せる絶景

青木 満（寒風山山焼き実行委員会）

土呂部の茅場 茅ボッチの並ぶ里山風景と草原植物を守る

飯村 孝文（日光茅ボッチの会）

開田高原の半自然草地 木曾馬文化がはぐぐむ、秋の七草が咲く草原

服部 泰英（ニゴと草カップの会）

蒜山高原の草原 蒜山三座のすそ野に広がる生き物の住処

千布 拓生（蒜山自然再生協議会）

奥雲仙田代原 ミヤマキリシマ咲く彩りの放牧草原

木下 美津子（特定非営利活動法人奥雲仙の自然を守る会）

阿蘇・南阿蘇村の草原 南阿蘇の湧水群をはぐくむ草原群

吉良 清一（南阿蘇村）



主催 | 全国草原の里市町村連絡協議会

後援 | 環境省 東京農業大学

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局

〒413-0411 静岡県賀茂郡東伊豆町稲取3354

東伊豆町 企画調整課

E-mail: sogen100@sogen-net.jp / TEL: 0557-95-6202

＜資料 2＞ 選定された「未来に残したい草原の里 100 選」の名称および位置

1	上山高原(うえやまこうげん)	18	稲取地区特別財産運営委員会 (いなとりちくとくべつざいさんうんえいいんかい)
2	土呂部の草原を次代に－日光茅ボッチの会 (どろぶのそうげんをじだいに－にっこうかやぼっちのかい)	19	南阿蘇村 (みなみあそむら)
3	乙女高原ファンクラブ(おとめこうげんふあんくらぶ)	20	キスゲ平(きすげだいら)
4	谷田武西の原っぱと森の会 (やたむざいのはらっぱともののかい)	21	木曽町開田高原(きそまちかいだこうげん)
5	富士宮市根原区朝霧草原 (ふじのみやしねばらくあさぎりそうげん)	22	曽爾高原を守る会(そにこうげんをまもるかい)
6	産山村(うぶやまむら)	23	菅沼(すがぬま)
7	川南町(かわみなみちょう)	24	入会の森「上ノ原茅場」 (いりあいのもり「うえのはらかやば」)
8	寒風山(かんふうざん)	25	三瓶山麓草原の里(さんべさんろくそうげんのさと)
9	秋吉台(あきよしだい)	26	芸北(げいほく)
10	奥雲仙田代原草原(おくうんぜんたしろばるそうげん)	27	御船町(みふねまち)
11	東お多福山草原 (ひがしおたふくやまそうげん)	28	小清水原生花園(こしみずげんせいかえん)
12	都井岬(といみさき)	29	高森町(たかもりまち)
13	笠祇・古竹草原(かさぎ・ふるたけそうげん)	30	大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会 (だいせんおきこくりつこうえんかがみがなるほせんさい せいかつようきょうぎかい)
14	西ノ島町(にしのみまちょう)	31	蒜山高原(ひるぜんこうげん)
15	阿蘇市(あそし)	32	熊本県小国町(くまもとけんおぐにまち)
16	くじゅう飯田高原(くじゅうはんだこうげん)	33	阿蘇・南小国町(あそ・みなみおぐにまち)
17	深入山(しんにゅうざん)	34	大野ヶ原の草原(おおのがはらのそうげん)



未来に残したい草原の里 100 選について

○趣旨

かつて、日本の暮らしは草原によって支えられてきました。草原の草は、茅葺き屋根、肥料や敷草の材料、牛や馬の飼料として必要でした。また、ワラビなどの食物やセンブリなどの薬草も、草原の恵みでした。草原の資源を最大限に活用するため、利用のルールや火入れ（山焼きや野焼きなど）の技術が各地で生み出され、引き継がれてきました。

しかし、高度経済成長期以降、草原は国土の 1%にまで激減しています。一方、草原のある里で育まれてきた「過去のものと思われていた」技術や知恵は、これからの持続可能な社会を実現する上で大切なことが分かってきました。

そこで、2018 年 7 月 4 日に、全国 23 自治体の首長が組織する「全国草原の里市町村連絡協議会（連絡協議会）」は、環境省に「全国草原の里 100 選」の検討を進めていくことについて要望書を提出し、連絡協議会として選定事業を推進しています。

日本各地の草原の里には、それぞれに独自の技術や知恵、そしてなつかしい風景が残されているはずです。これらを日本全体で共有し、活用していくことで、次世代に希望のある自然共生型社会をつくることが「未来に残したい草原の里 100 選」を実施する目的です。

○未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会（2022 年 9 月 1 日現在、敬称略、五十音順）

（委員長）

湯本 貴和 京都大学名誉教授、中部大学客員教授、京都芸術大学客員教授

（委員）

安藤 邦廣 筑波大学名誉教授、一般社団法人日本茅葺き文化協会代表理事

岩井 茂樹 全国草原の里市町村連絡協議会会長、東伊豆町長

河野 博子 ジャーナリスト、一般財団法人自然環境研究センター理事

高橋 佳孝 一般社団法人全国草原再生ネットワーク代表理事

長沢 裕 タレント、公益財団法人日本環境教育フォーラム理事

町田 怜子 東京農業大学教授

養老 孟司 東京大学名誉教授

○主 催：全国草原の里市町村連絡協議会

○後 援：環境省

第二次募集のスケジュールについて

2022 年 10 月 18 日 第二次募集の開始

2023 年 1 月 10 日 第二次募集の締め切り

2023 年 4 月頃 第二次選定地の決定

2023 年秋頃 認定式、フォーラムの開催

<参 考> 全国草原の里市町村連絡協議会について

草原をもつ自治体間の連携と草原保全を進めることを目的として、2016 年 11 月に発足しました。現在、24 市町村により構成されています（現事務局：静岡県東伊豆町）。2019 年の定時総会において、「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を進めていくことを決めました。